



介護の現場から



祖母は認知症を患いました。それ以外は大病をすることなく、100歳の天寿を全うしました。晩年は、老人ホームに入居していましたが、ホームでは、一日中、一言も発することなく、お気に入りの人形を抱えて、ただただニコニコして過ごしていました。時には、職員さん達と洗濯物をたたんだり、小物作りを手伝ったりもしていたようです。職員さん達は祖母の声を一度も聞いたことがなかったのですが、その笑顔にはいつも癒やされる穏やかなおばあちゃんだったと聞き、そんな風に言ってもらえる祖母を羨ましく思いました。そんな祖母が、次第に食事が摂れなくなり入院しました。点滴を受け、声はおろか目を開くこともなかった祖母でしたが、最期の時、母が「おばあちゃん、分かる？」と呼びかけると、目を僅かに開き、母の名前を小さな声で囁いて、穏やかな微笑みを浮かべたように見えました。認知症で母のことも分からないとだけ思っていただけに、胸が熱くなりました。自分が認知症になったときも、祖母のように穏やかに過ごしたいと願うばかりです。そして、祖母が穏やかな笑顔で周囲を癒していたように、私も、利用者に安心感を抱いてもらえるよう、穏やかな笑顔で丁寧に接することを心がけたいと思います。

(有料老人ホーム共生の里：0事務員兼介護員)

